

事例16「犯罪被害者遺族を外部講師に招き、講演会を行った取組」(高等学校)

参考6

取組のポイント

・犯罪被害者の家族(NPO法人「犯罪被害者支援の会」)からの講演を通じて、生徒が、命の大切さ、暴力のない社会の必要性及び犯罪被害者等の人権などを学ぶねらい。この講演会は、生徒が主体となって企画・運営を行っており、広く社会問題を、生徒と教員が一緒になって学びながら、一人一人の人間を大切にすることを探求する学習の一環として実施している。

実践活動の流れ・発展

生徒会の委員
会が中心とな
って複数の
テーマ候補を
検討

生徒会から全
校生徒に対す
るアンケート
の実施

講師の手配
と、講演内
容に関する事
前の調査研究、
広報活動

犯罪被害者の
家族による講
演会の実施

事後アンケート
をとるとともに
事後のホーム
ルーム等で発展

教育課程上の位置付け

ホームルームの時間を活用して、日ごろから指導を実施。

「犯罪被害者の家族による講演会」は、特別活動の時間(学校行事の一環)として実施(生徒は全員参加)。

実施までの経緯

【生徒】

生徒が主体となって企画した。
生徒会の実行委員会がテーマ候補案を作成。
事前アンケートによる生徒のテーマ希望調査。
テーマ決定(「少年犯罪について」)。
テーマ決定後、実施方法の検討。
「犯罪被害に関する問題」にテーマを絞る。
講演テーマ等に関する事前の調査研究。



【教員】

生徒の主体的な企画・運営を側面的に支援。
生徒のアンケートにより決定した事項について、
実施方法や講師の選定等について助言。
テーマに関連して、有識者を招いて「10代の
犯罪意識と学校の役割」というテーマについて、
事前に校内の教員研修を実施。



事前の取組

【委員会の発足】

各クラス2名ずつ生徒会の実行委員
員を選抜。
この中から7名の役員を選出し、
この役員がメンバーとなった委員会
総務が全体の運営をリードする。
過去の活動の反省を実施。

【テーマの選定】

委員会が、最近の社会情勢を
踏まえテーマの候補案を作成。
生徒全員に対して、テーマと
実施方法に関する事前アンケート
を実施。
アンケート結果に基づき、テーマ
と実施方法(講演方式)を決定。

【講演者依頼と調査研究】

テーマを『少年犯罪』とし、特に
犯罪被害者と人権の問題に絞る。
インターネット等を活用して犯罪
被害者に関する講師の選定。
講師や講演テーマについて事前
に調査研究し、全校生徒に対して
その研究成果を広報。

【実施】

生徒の移動や整列、マナー
等秩序維持等に関しても委員
会が主体となって実施。
会場準備、司会進行、講師
の接受等に関しても生徒が教
員の側面的支援を受けて実施。



【広報】

広報誌『All Rights にっぽん』に
よって事前研究内容を広報。
生徒全体に対して、ビラやポス
ター等を作成して広報。
講演者からビデオを借用し、生徒
及び教員に対してビデオ上映会を
実施。